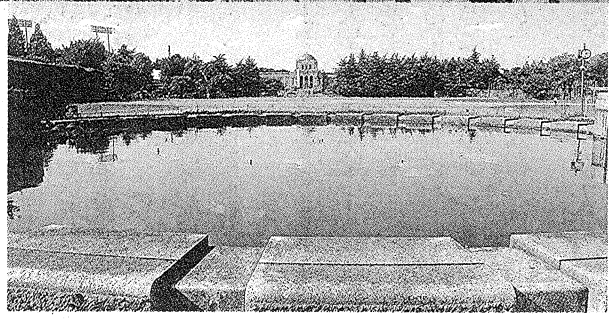
100年愛せる景観か

決定過程、費用負担も不透明

新国立競技場

東京五輪に向け、国立競技場を「世界一のスタジアム」に建て直す。開催地決定のお祝いムードの中、着々と進むこの計画に、一人の世界的建築家が疑問を呈している。「こんなに大きいものが必要か。今後百年、都民が愛せるものになるのか」。未来を見据える槇文彦さん（文化）の訴えは、百年近く都心のオアシスとなってきた明治神宮外苑の景観を守り育ててきた先人の意志に通じる。

（森本智之、●面参照）



㊤聖徳記念絵画館へ続くイチョウ並木。晩秋から初冬の紅葉の時期には大勢の人でにぎわう
㊦イチョウ並木を抜けると、聖徳記念絵画館が見える。周辺の並木よりも高い建物はほとんど見えない＝東京・明治神宮外苑で

風景損なう 幻の五輪でも計画撤回

青山通りから真っすぐに左右二列ずつ並ぶイチョウ並木。三百㍍にわたって続くその並木道を抜けた先に石造りの聖徳記念絵画館が見える。都心なのに高層ビルが視界に入らない、伸びやかな光景がここにある。

この貴重な景観が近い将来、失われてしまうかもしれない。絵画館に向かって左奥にある国立競技場を建て替えるため、都は高さ規制を五倍の七十五㍍に緩和。計画では、現在の五倍以上の床面積を持つ新競技場に生まれ変わるからだ。

明治神宮外苑は大正初期、都市の中心に市民が憩う場を造ろうと計画された。完成した風景は、都民のオアシスとなってきた。

「新競技場計画は、百年近く環境を守ってきた先人の行為を台無しにしようとしている」。京都工芸繊維大の松隈洋（まつくまよう）教授（近代建築史）は指摘する。

実は、幻に終わった一九四〇（昭和十五）年の東京五輪でも同様の議論が起き、計画が撤回されていた。

候補地選定を担当した東京帝大教授岸田日出刀（きだひでと）は建築誌で「スタンドが尨大（ぼうだい）な姿で建ちはだかった場合、（略）今の調和した風致美は跡形もなく損じ去られる」と指摘。所管する内務省の後押しもあり、候補地は変更された。松隈教授は「今とまったく同じ状況。槇さんの問い掛けは重い」と話す。

なぜ、狭い敷地に巨大な競技場が造られることになったのか。今回の建て替え計画の経緯は不透明だ。

国立競技場を管理運営する独立行政法人・日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）は昨年三月、計画の内容を検討するため、「国立競技場将来構想有識者会議」を設置した。

佐藤禎一元文部次官をトップに、メンバーは猪瀬直樹東京都知事や竹田恒和日本オリンピック委員会会長ら政界、スポーツ界関係者ら十四人。ＪＳＣの担当者は「世界レベルの国際大会の開催基準を満たすよう、設備面の内容を一つ一つ検討してきた」と話すが、メンバーで建築関係の専門家は、建築家の安藤忠雄さんだけだ。

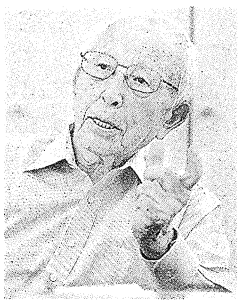
有識者会議でどのような議論があったか、議事録は公開されておらず、外部から検証するのは難しい。

ＪＳＣは昨夏、この計画を基に外観のデザインを公募。年末には英国の建築家ザハ・ハディドさんの作品を採用することに決定し、準備は着々と進む。

ハディドさんの作品は開閉式の屋根に掛かる二本の巨大なアーチが特徴の手の込んだデザインで、当初予定の千三百億円の総工事費を超える懸念がある。そもそも総工事費には現競技場の撤去費用や機器類、設計監理料などは含まれない。

競技場に設置される施設の詳細も「設計を進めていく中で決定していく」として、明らかにされていない。

国は四月にサッカーくじの売り上げの一部を財源に充てることができるよう法改正したが、予定額を超えた事業費を、どう負担するのかも不明だ。



槇文彦さんに聞く

東京開催良いが…社会へ説明義務

槇文彦さん＝写真＝との主なやりとりは次の通り。

―計画のどこが問題なのか。

「東京での五輪開催は、みんなが元気になるという意味で良いことだ。だが、新競技場の延べ床面積は二十九万平方㍍で、東京ドームの二・五倍以上。八万人の観客席を支えるコンクリートの壁だけが、下から見㍍。新競技場は数字だけ大きくて、なくてもいいものがある。必要かどうか、疑わしい機能が多い」

「北京五輪の『鳥の巣』はコンペの時は開閉式屋根だったが、カネがかかるとうな形でツケが回る」

―詳しい情報が伝えられていないが。

「なぜ二十九万平方㍍なのか、知っているのは計画している人だけだ。どうしてこんなに大きくなったのか、社会に対して説明する義務がある」

―論文の反響は。

「書いたことは、ほとんどの建築家がそう思っていること。すごい反響です」

国立競技場将来構想有識者会議のメンバー

委員長	
佐藤　禎一	元文部次官
安西祐一郎	日本学術振興会理事長
安藤　忠雄	建築家
猪瀬　直樹	東京都知事
遠藤　利明	五輪招致議連幹事長
小倉　純二	日本サッカー協会名誉会長
河野　洋平	日本陸上競技連盟前会長
鈴木　　寛	元文部科学副大臣
鈴木　秀典	日本アンチ・ドーピング機構会長
竹田　恒和	日本オリンピック委員会会長
張　富士夫	日本体育協会会長
都倉　俊一	日本音楽著作権協会会長
鳥原　光憲	日本障害者スポーツ協会会長
森　　喜朗	日本ラグビー協会会長、元首相